



2012年(平成24年)

5月13日

日曜日
母の日

ビジネス



■ミッションから

はじめよう！

並木 裕太〈著〉

使命を重視し課題の整理を

ビジネスとは絶え間ない課題解決のこと。航空会社の経営企画室に配属された「大空翔子」は、格安航空会社への対抗策という課題を会社から与えられる。戸惑う彼女の前に登場するのが、コンサルタントの「並木裕太」。彼はフレームワークやらツリーやらの専門用語を駆使して課題を解決に導く。

裕太が説く解決のステップ

は、「ミッション(使命)、ロジック(論理)、リアライズ(実行)」。リアライズには「レスター(認識)、エンゲージ(向かい合い)、コミット(責任を持つ)」の三つが必要というところで、翔子は随所で「また出た、横文字! 耳障りだし、意味がわからない」と、ツッコミまくる。そのツッコミに裕太が答える中で、意味不明の用語がわかりやすく解説され

ていく、という仕掛けだ。

著者は外資系コンサル会社出身で、この本もコンサルお得意のロジカルシンキングを扱っているが、「ロジック」よりも「ミッション」を重要視した点に、新たなひらめきがある。ミッションとは「なぜ、それを実行するのか」というそもそもの志「使命」のこと。ビジネスの現実にはロジカルとはいえない難いが、ミッションという軸が見え、課題整理のスキルがあれば、前に進むことはできる。そのスキルの最先端を、誰にも使い勝手よく整理している。(ディスカヴァー・トゥエンティワン・1575円)

清野 由美

(ジャーナリスト)